

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

長野県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
筑北村立筑北小学校	筑北村教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
筑北小学校	http://chikuhoku-edu.jp/elementary-chikuhoku/%e3%81%8a%e7%9f%a5%e3%82%89%e3%81%9b/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価・学校関係者評価結果の公表 URL
筑北小学校	http://chikuhoku-edu.jp/elementary-chikuhoku/%e3%81%8a%e7%9f%a5%e3%82%89%e3%81%9b/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

年に1度「ホットスポットちくほく（筑北村村報・議会だより・公民館報）」で、地域住民を対象とした特別の教育課程に関する説明と実施の様子及び成果を記事にして掲載している。村民にとっても多文化理解が進み、外国人が身近な存在となるようにしている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、外国人及び外国の文化に触れることが少ない本村にとって、子ども達が将来グローバルな視点を持って活躍できるよう、また、外国人と共生できるよう、保育園段階から外国人や外国語に親しむ環境づくりとして、村のALT・JETによる「英語とともだち」の時間を設定し英語活動を実施している。

保育園児及び小学生において、外国人だからとしり込みすることなく、自分が習得している英語を使って積極的にコミュニケーションをとる姿がある。

一方で、英語に触れる又は、外国人と接するのは英語の授業や英語活動の時間のみという実態もある。普段の生活の中でも外国人に触れたり、英語を使う機会を作ることがグローバルな視点を持つためには必要であるという課題も指摘されている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

外国語科・外国語活動として教育課程にの中に外国語が位置づき、教科書が出来てから、「英語が好き」という児童が減少してしまった。教える教師側の問題もあろうが、環境として、JETや担任の授業として外国語教育がなされるというのではなく、小学校にもALTを配置し、生の英語を聞いたり、外国語やその背景にある文化に触れたり、英語の時間以外の学校生活全体の中で外国語に触れ、ALTと活動することにより、自然と目的・場面・状況に応じて、外国語でコミュニケーションを取ろうとしたり、英語で表現して伝え合ったりするようになり、外国語に親しみ英語が好きになっていくだろう。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を踏まえて、普段の生活の中で、外国人に触れたり、英語でコミュニケーションしたりする機会を設けるという方向で、本特例の改善を図ることが必要と考え、保育園にALTとJETを配置。小学校にALTを配置した。そのことにより、外国語科や外国語活動の授業にも変化が生じ、子どもたちが外国語科や外国語活動の授業を楽しみにするようになった。